

## <寄稿>

# 環境省自然系職員（レンジャー）の仕事 ～霞が関から佐渡島，そして知床へ～

西村 健汰（平成 30 年卒，令和 2 年修了）

環境省 釧路自然環境事務所 羅臼自然保護官事務所

### 1. はじめに

この度は，環境省の取組についてご紹介させていただける機会をいただき誠にありがとうございます。

私は学生時代，保全生態学研究室に所属し，奄美大島の森林域で鳥類-昆虫-植物の食べる-食べられるの関係について研究をしていました。大学院修了後，令和 2 年度に環境省に入省し，本省外来生物対策室，佐渡自然保護官事務所を経て，現在は知床国立公園等を管轄する羅臼自然保護官事務所です。

### 2. 日本の国立公園とレンジャーの役割

現地事務所の業務は本省でつくった施策を実際に現場で実現する仕事になります。一つ目は国立公園の管理です。日本の国立公園はもともと様々な形で国土が利用されている場所に国立公園のエリア（網）を指定しています。このため，公園の管理にあたっては，土地の所有権や財産権との調整が必要であり，開発等を行う際にはレンジャーが公園の保護に支障がないかを審査します。国立公園は保護と利用の両立を目指す自然公園法という法律に基づき管理しており，保護を図る一方で，利用のためのルールづくりや環境整備もレンジャーの仕事です。国立公園の管理にあたっては様々な関係団体や土地所有者との調整が必要であるため，自然を相手にする仕事であると同時に「人を相手にする仕事」でもあります。

二つ目は野生生物の保護・管理です。希少種の保全，鳥獣保護区の管理，シカやイノシシなどの増えすぎた鳥獣の管理，外来生物対策などを担います。レンジャーとしては，このような野生生物の各分野の専門家や地域で活動する団体との連携や調整を行うことも重要です。例えば，希少種の保護にあたり，専門家による検討会の場を設けて必要な施策を検討し，事業を実施します。

三つ目は，自然環境の保全整備です。公園利用のための施設整備（ビジターセンター，標識，自然歩道など），野生生物の保護施設の整備（飼育下繁殖施設，シカの防護柵など）自然環境の再生などがあります。

その他，世界自然遺産の管理，エコツーリズムの推進，全国的な自然環境調査や国民公園の管理についてもレンジャーが担っています。



写真 1 知床連山巡視の様子（環境省提供）

### 3. トキ野生復帰の取組

佐渡島は国立公園に指定されてはいませんが，国の特別天然記念物であるトキ *Nipponia nippon*（絶滅危惧 IA 類）の野生復帰のために環境省の現地事務所が島内に設置されています。

トキは江戸時代まで全国各地に分布していましたが，明治時代以降の乱獲や生息環境の悪化による生息地の減少等により個体数を減らしました。日本産トキ最後の生息地である佐渡島では，島民を中心に長年にわたり保護活動が行われてきましたが，1981 年に野生下に生息する最後の 5 羽を捕獲したことで国内では野生絶滅に至りました。

その後，中国から提供されたペアで人工繁殖に成功。飼育下で順調に個体数を増やし，2008 年に第 1 回トキ放鳥

が行われました。島民および関係機関の積極的な協力により、現在では推定545羽（2022年12月31日時点）のトキが国内に生息しています。

トキの主な餌場は水田であり、佐渡島の多くの農家は減農薬・減化学肥料栽培等を実践し、良好な餌場を維持しています。農薬や化学肥料の使用を控え、「生きものを育む農法」で栽培されたお米は「朱鷺と暮らす郷づくり」認証米として販売されるため、消費者も間接的にトキの野生復帰に貢献することができます。

また、新潟県佐渡地域振興局では、土木工事発注時に「朱鷺仕様書」を添付することで、土木工事によるトキの生息への影響をできるだけ軽減することを目指しています。工事施工業者との調整や佐渡自然保護官事務所への事前相談等によりトキに配慮して工事が実施されており、これまでに土木工事によるトキの生息への悪影響は報告されていません。

#### 【参考資料】

トキと共生する里地づくり－佐渡島の取組を例として－

<https://kanto.env.go.jp/wildlife/mat/tokitokouseisurusatochi.pdf>



写真2 緑の畦とトキ（環境省提供）  
（除草剤を使わず、草刈で畦を管理している証）

#### 4. 知床世界自然遺産～陸と海のつながりを守る～

知床国立公園は「流水がつなぐ豊かな生態系、火山が生んだ山々と海岸断崖が織りなす雄大な景観」がテーマの国立公園であり、陸域と海域の相互作用によって形成される特異な生態系と生物多様性が評価され、世界自然遺産にも登録されています。

陸域と海域を繋ぐ上で重要な生物にサケ科魚類がいます。知床では、シロザケ、カラフトマス等が大量に河川を遡上し、ヒグマやシマフクロウ、オオワシ、オジロワシな

ど食物連鎖の頂点に位置する大型哺乳類、猛禽類の重要な餌資源になっています。また、サケ科魚類は海起源の物質を陸上生態系へ運び、その生産力と生物多様性を高める存在でもあります。

このように、河川は遡河性の魚類をはじめ多様な生物を育み、水循環、物質循環を通じて、海洋生態系と陸上生態系を有機的に繋ぐ重要な役割を有しています。しかし、多くの水系がダムや河川構造物によって上流と下流の連続性が遮断されており、知床も例外ではありません。ユネスコ世界遺産委員会からは知床の世界自然遺産登録を決定した決議の中で、遺産地域内の河川に設置されている工作物について、サケ科魚類への影響とその対策について明らかにするよう求められました。これを受けて知床では、河川生態系の連続性を再生するために河川工作物の改良に取り組み、サケ科魚類の遡上・降海を促進することで、海洋生態系と陸上生態系の相互関係を保っています。

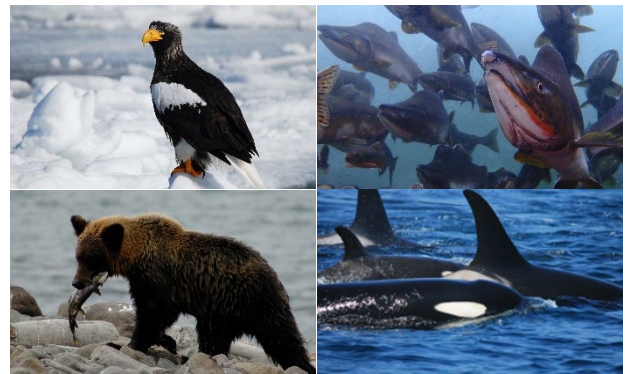


写真3 知床の野生生物（環境省提供）

#### 5. 最後に

日頃より環境行政に対して多大なるご理解・ご協力をいただき感謝申し上げます。

環境行政の役割は、自然環境の保全や持続可能な開発を促進するための方針や規制を定め、施策を推進することですが、開発行為等との両立は大きな課題です。一方で、近年は自然環境保全への理解が進み、その両立が積極的に図られています。今後も我が国の豊かな国土を後世に残していくために、より一層のご理解・ご協力を賜りたく存じます。

読者の皆様にとって、本稿が自然環境の保全に対する理解の一助となることを心より願っております。今後とも何卒よろしくご協力申し上げます。